



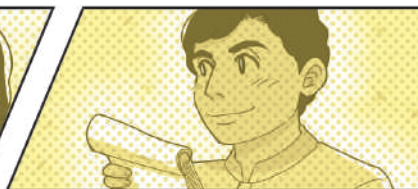
パキスタン

プロジェクトストーリー「漫画版」

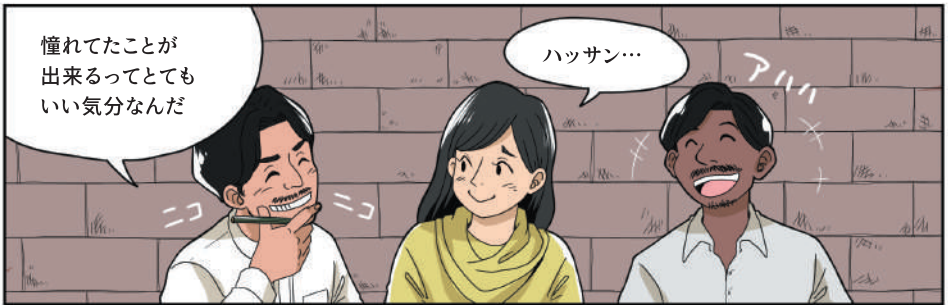
未来を拓く学び

いつでもどこでも誰でも

ノンフォーマル教育、0からの出発







国際協力機構(JICA)はパキスタンにおいて、ノンフォーマル教育の協力を15年以上にわたって行い、不就学児童や若者・成人の非識字者が学ぶ機会を得て社会に参画していける教育の仕組みや、生活に役に立つコンテンツを盛り込んだカリキュラムや教材の開発をパキスタンの政府機関などと協力しながら行っている

このプロジェクトに関わった人々のチャレンジと成果の記録を紹介していこう

パキスタン・イスラム共和国とは…?

総面積 79.6万km²

首都 イスラマバード

言語

- ・ウルドゥー語(国語)
- ・英語(公用語)

美しい山々に囲まれ
肥沃な土地に恵まれている

世界遺産!

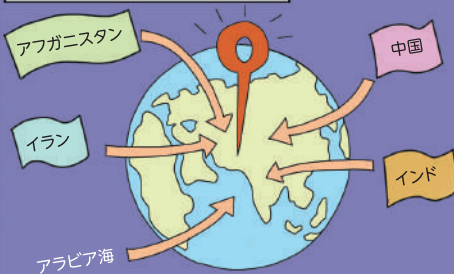
国旗のデザインは一見カワイイが
宗教的な意味合いが強い

「モヘンジョダロ」考古遺跡

紀元前2500年～紀元前1800年

インダス川下流域に位置する世界四大文明の1つで
インダス文明で最古最大の都市遺跡
4万人近くが居住していたと言われ、短い期間で
衰退したことも謎の一つ…歴史がある国なのだ

パキスタンの場所は?

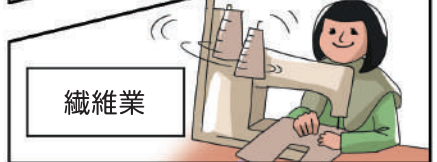


色んな国に囲まれた、色んな文化の交流点

主要産業は… 農業



繊維業



学校にいけない子供の数が多く、様々な原因で教育が行き届いていない



そして今回
このストーリーのキーとなる言葉
「識字率」
の低さも特徴

パキスタン
の識字率
約60%
(2021年)

خواب



ちなみに...
15歳以上の
識字率は...
(2021年)

57%

そのうち 男性

68%



女性

46%



日本では耳慣れない言葉「識字率」...
「リテラシー」というと少し馴染みがあるだろうか？

メディアリテラシー

コンピューター
リテラシー



「識字」は文字の読み書きのスキルを活かして
情報を正しく得て、理解し
さらに自分の考えや気持ちを
伝える術を持つことを意味する



パキスタンは国民の2割に当たる人が
貧困だと言われている

農村部だと子どもが6~7人
いる家族が一般的で…



家計を助けるために次男より長男、
女の子より男の子を優先的に学校に通わせ



他の子どもたちは家の手伝いや
子守りをする事も多い

工事現場や農作物の運搬などを
手伝ったり…



屋台で物を売ったり…



お手伝いさんとして
働いたりすることもある



パキスタンは綿花栽培が有名で、収穫の時期には家族総出で摘む
子ども、特に女の子の手は小さくて繊細だから、綿花を摘むのには最適という
昔ながらの考えがあり、収穫期の1~2ヶ月は女の子たちが駆り出されるのだ



その間も学校の授業は容赦なく進むので
収穫が終わって学校に帰ってきたら
授業についていけない…なんて事も



教育機会の不平等、栄養面での不平等…
家庭内で少なくとも1人の子どもは
栄養不良に陥っていると言われて
学校の制服、靴、文房具が買えないという
理由で学校に行くのをやめてしまう

現在は、親の教育への理解は一部の地域を除いてだいぶ深まっているむしろ少しでも子どもたちに学んでもらいたいと思う親が増えている



でも、その親の4割近くが文字の読み書きができず



子どもたちの宿題をサポート出来ない

貧しさから家事手伝いを優先させてしまい、結局子どもたちは学校を続けられなくなってしまう



小学校の卒業学年までに中退してしまう確率は50%近くととても高いのだ

そんな識字率が低く、教育も中々行き届いていない国だけど文化的に豊かでポテンシャルは高い
例えば…

詩を読む文化があって、自分たちの気持ちを詩にして読み上げ楽しむいわゆる口頭で表現する「オーラルカルチャー」の伝統を持つパキスタンでは誰もが日常的に気持ちや想いを詩にして伝えあう



顔をふんで美しく日常の生活や人生の豊かさ、自然の美しさを語る人たちは学歴や年齢などは関係なく尊敬の対象にもなるのだ

文字の読み書きができない「非識字者」がぶつかることは
日々の生活の中に山ほどある



処方箋や瓶の名前が分からなくて
間違って沢山薬を飲んでしまったり
農薬の瓶と薬の瓶を間違えて子どもに飲ませてしまったり
大変な事になることも…



パキスタンは地震や洪水もしょっちゅう起こる
災害の時に情報もちゃんと把握できなくて
とても困ってしまうことがある…



社会保障や融資や選挙、社会に参加するための
さまざまな機会を奪われてしまう…



非識字者が困ることは沢山あるのだ…

ここで少し、このプロジェクトの一員であり
この漫画の主人公である私
大橋のことを少し紹介します!



自分が国際協力と呼べるような
仕事に関わって生きていくなんで
思わなかったわ…



海外旅行で訪れたアジアに
興味を持ち、就職活動を



就職先の団体は協力が必要なアジアの
国を“支援する”という形ではない!!



アジアの人々と私達で
一緒に取り組もう!

この頃アジアでは、小さな子どもが絵本に触れるチャンスが無く
「もっと良い本を作ろう!」という軸でスタートした活動だったんです!



そこで知ったのは…



「子どもに良い本を」の以前に、農村に行ったら大人も文字が読めない人が多いという現実

私は文字が読み書き出来ない人たち向けの教材を作ることになり



「リテラシー」という言葉に触れるようになった

その後別の団体では基礎教育や識字に関するマニュアル作りやコミュニティ学習センターの活動を通して「ノンフォーマル教育」というのを知りようになり自分の活動のエッセンスになる価値観が作られていった

聞き慣れない、そして分かりづらい「ノンフォーマル教育」や「リテラシー」の意味を教えてくれたのは…



活動の中でまさに「一緒に」モノづくりをしたアジアの人たちだった

JICAと出会ったのはこの後

ノンフォーマルの教育の仕事をやりたい!

具体的に形にしたい!

これだ!!

独立行政法人
国際協力機構

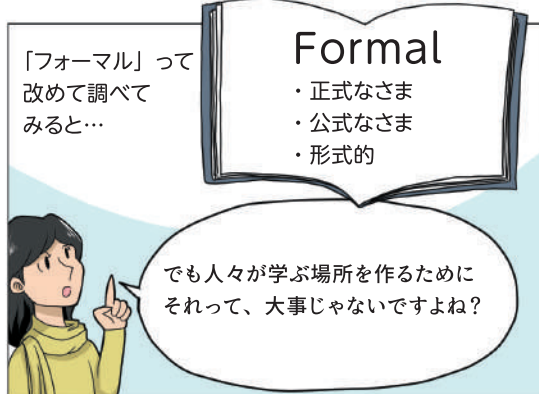
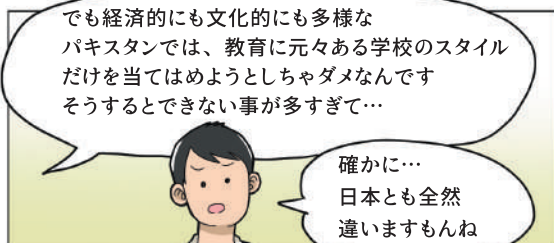
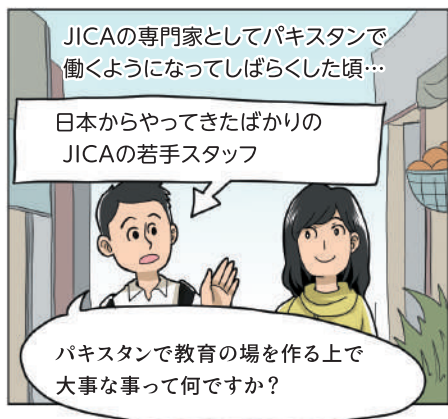
JICA

パキスタンでの
専門家募集!!

という思いが捨てられずにいた頃…

すぐに応募し
そして受かることが出来た

2008年にはJICAにて配属されたパキスタンへと飛び立つことになる



そう!多様性が大事!

それに通常の学校だと
学年ごとに分けるけど
ノンフォーマルだと
全然違う年齢の人たちが一緒
に学ぶことも多いんです



そうすると自然にお互いが学び合え
影響を与え合うことで、普通以上の
学びを得るなどの相乗効果が
生まれるんです

なるほど!

「ノンフォーマル教育」は
「教育」というものの中の一つで



『柔軟でその場所の
ニーズに合ってる教育』
ってことなんです!

そう!学校に来るのを
待っているんじゃなくて



出前のように必要とする人のところに
出向いて行きます!
そして何を学んだらその後の人生の
役に立つのか知ることが重要なんです

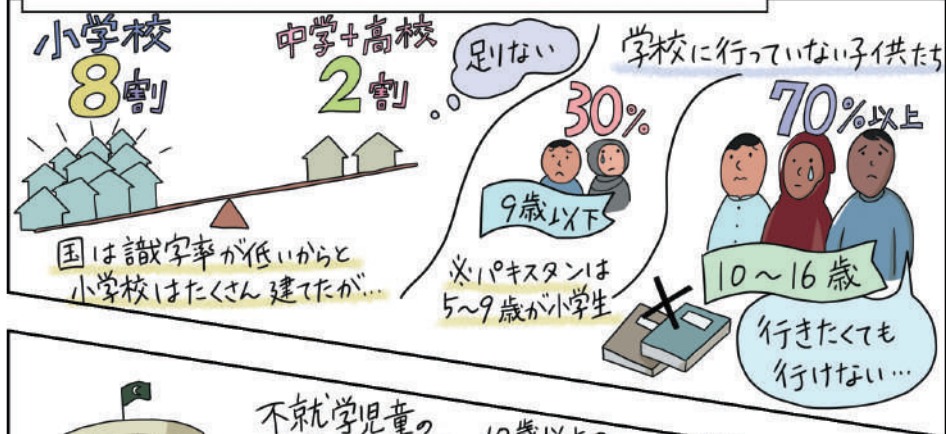
1人1人が成長すると
それを通して社会も変わって
いきますよね

そうですね、そういう変化を
促すためにあるのが
「教育」なんだと思っています



そうしてプロジェクトの活動は、多様な学び方の促進
環境整備、教育内容整備、教材やカリキュラム作成の監修
そしてノンフォーマル教育の政策…と内容的にも地域的にも拡大していく

パキスタンの教育に関する問題は色々あった…



不就学児童の問題...

10歳以上の子ども・若者が多数あり認識されず...

政府機関・援助団体

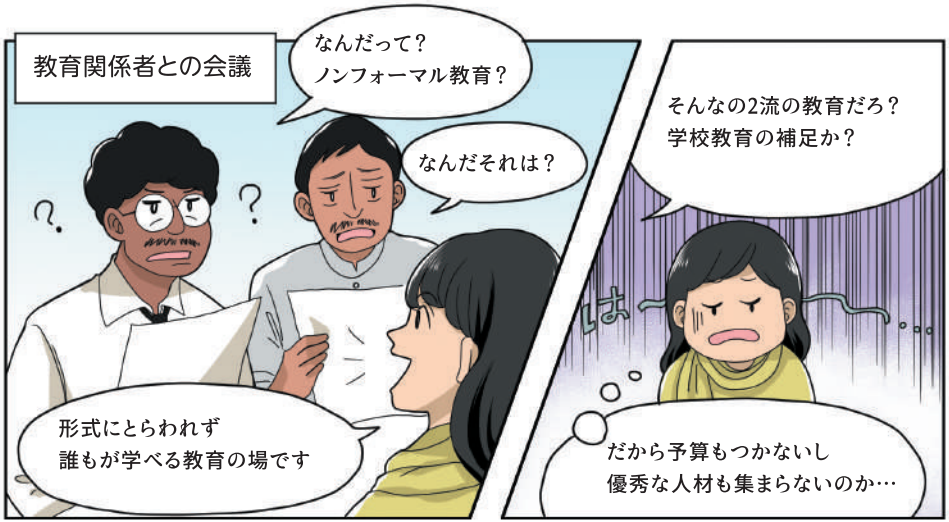
JICA & 私たち
課題解決に向け

社会的に認められるようになってきた!

具体的でしっかりした制度

Nonformal learning
ノンフォーマル教育

学齢期を過ぎても練習法で短期間で学べる





◆ **ノンフォーマル教育** ◆
◆ **必要なこと!** ◆

1 政策などの
枠組みをつくる!

2 良いカリキュラムや
教材の中身をつくる!

3 応援団を
(政府・援助機関など) つくる!

社会生活を
送りながら
短時間で学べる!

SPEED!

既に開発されていた

速習法 や **ティーチングメソッド** は
急ぎで学習するのに必要なものとして **重宝** ◆
→ ノンフォーマル教育の強みになる...



このプロジェクトは、もちろん私と JICAのスタッフだけできず、沢山の人がそれぞれの出来ることを持ち寄って協力し合って作り上げられたものだった



彼女たちが持ち歩いてる家族ごとの
管理表があって、その項目に…

識字？
or
非識字？

学校に行ってる？
or
行ってない？

これらを入れるデータ欄を
つけ足して欲しいと
保健局に掛け合えば
良いと思うんだ

中退した場合
それはいつ？

そしたら彼女たちを通して
いつでもデータを
アップデート出来るよ

なるほど!!
全然思いつかなかった

というか…現地のアビッド
だから思いつくことなんだね

チホ達が進めている
このプロジェクト
「ノンフォーマル教育」は
子どもから大人まで色々な
理由で学べない人がいて

多様性を大事にしなければ
いけない

ニーズや対処方は
地域によっても異なる

だから僕は行政官に
対しても新しい仕組みを
提案できるよ!

持つべきものは
現地のニーズを知っていて
実践に移せる人だね!

このプロジェクトには確実に彼の力が必要だった
実際アビッドはこのプロジェクトの目的をよく理解し、情熱を持って取り組んだ
話相手の興味を引き出し、必要なことと結び付けるのがうまかった
高いコミュニケーション能力で友達も多く、とにかくネットワークが広いのだ
目的の為ならまずはやってみるという、決断力に優れている人物だった

そしてプロジェクトに
大きな力を注いでくれた人物
ハッシブ・サーブ



※「サーブ」はパキスタンで「～さん」という意味

パンジャブ州の識字局は学校教育局から独立した
部局(省庁)であり、2002年に新しく作られた
当時パキスタンでは経済に繋がる省庁の立場が強く
識字局はとても弱い立場



ノンフォーマル教育の部局より
従来の学校教育の方が
ステータスがグンと高かった

識字局

プロジェクトがスタートし
数ヶ月が過ぎようとした頃
現われたのが彼だった…



さ、識字局に
着いたけど…

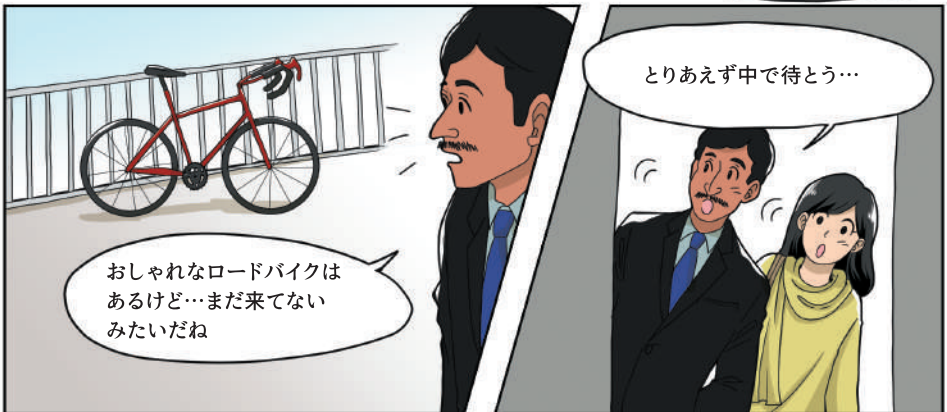


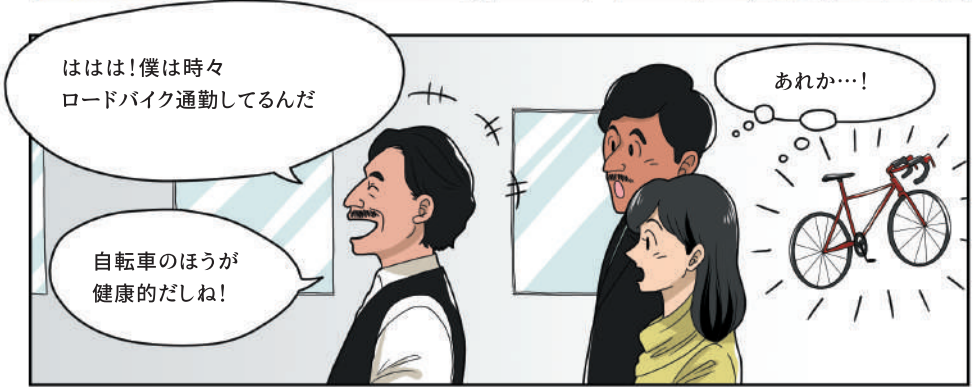
ハッシブ・サーブの車
らしきものはないね

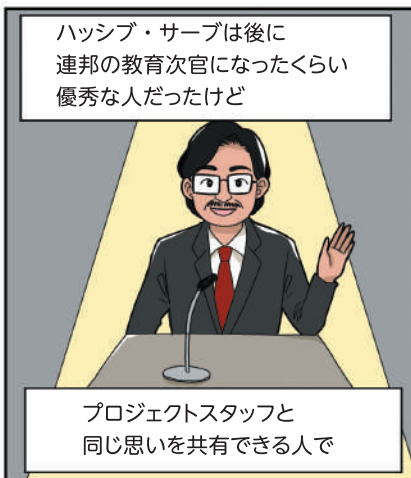


おしゃれなロードバイクは
あるけど…まだ来てない
みたいだね

とりあえず中で待とう…







こうしてかを合わせて
プロジェクトは進んでいた...



不就学児向けの
学校、開校予定の

※ USAID



パンジャブ州

実際の活動を
見てもらい...



開発していた教科書や
カリキュラムを
使うことに



シンド州の教材が
できるまで、開校を
予定より6か月も
遅らせてくれた



USAID 代表

よし一緒にやろう!
この取組みは
おもしろそうだ!!

準備がしっかりと出来、
彼らのチャンネルを通して

10000

人以上の
子どもたちに

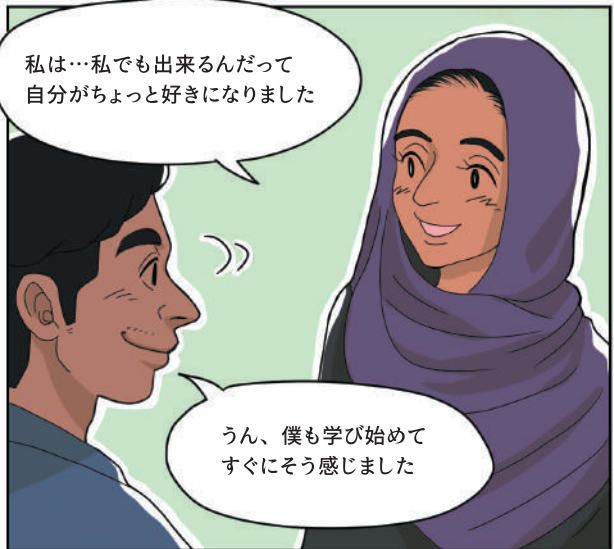
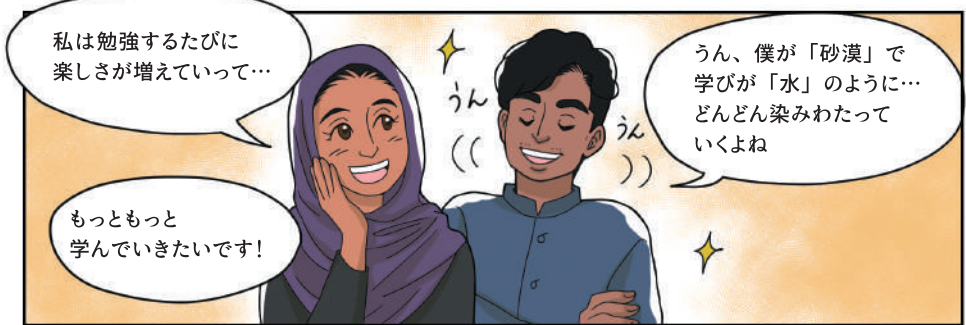
教科書を届ける
ことが出来た!

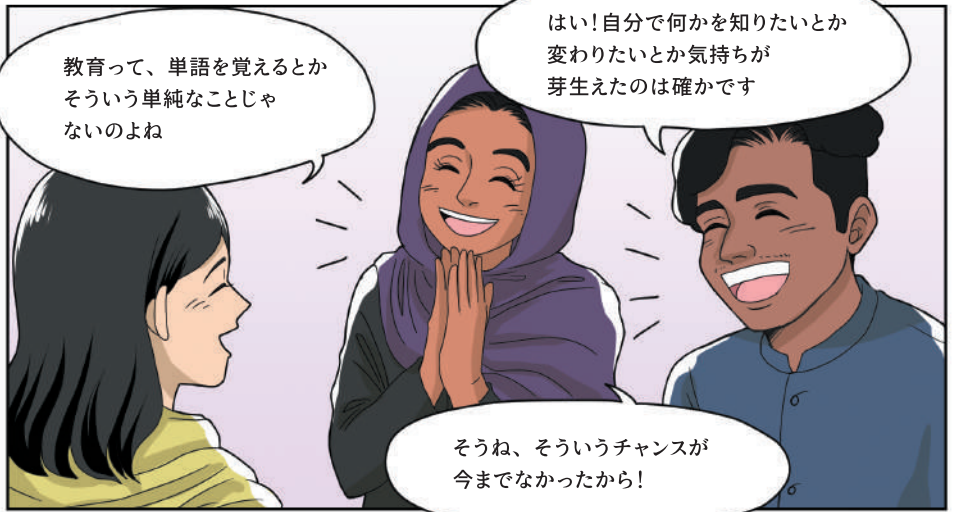
カラチの
スラム地区の
子どもたちにも
この教科書は
届いた!



※アメリカ合衆国国際開発庁・海外援助を行う政府組織

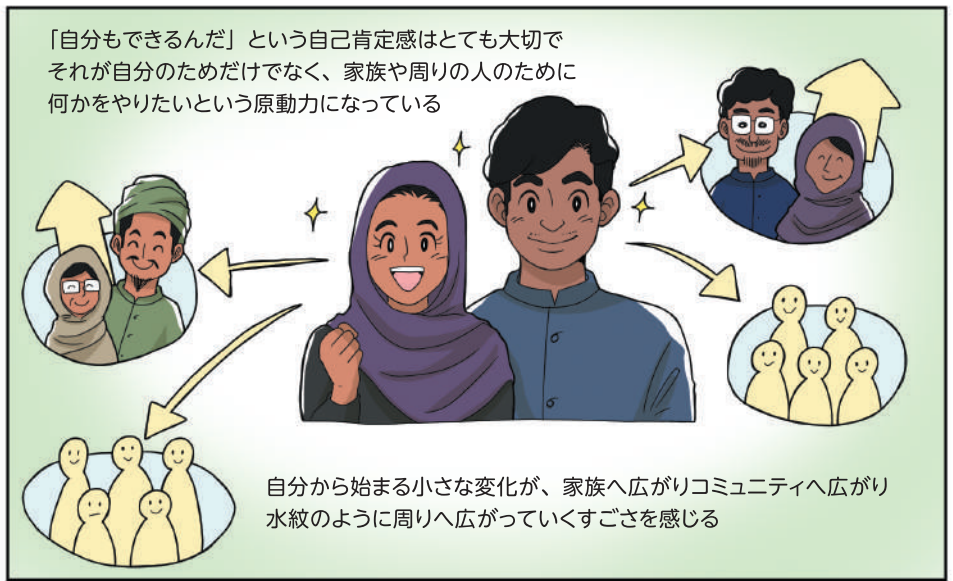






嬉しかった言葉の数々だった

このプロジェクトを進めることの答えとして凝縮
した答えがここにあった



そんなパキスタンの識字率を
とりまく問題を色々な事例を
あげてお話ししておこう



ナディール君(12)

ナディール君が暮らす州都のペシャワールには
部族地域からの出稼ぎ者が多く住む
そのほとんどが肉体労働者で、彼の父親も
トラックの荷積み作業をする日雇い労働者だ



4人兄弟で働き、彼自身も近所のお茶屋で
一日に400ルピー（当時約380円）を稼いでいた

学校に行った事がないナディールに
転機が訪れたのは数ヶ月前…



我々は政府の支援を
受けたNGOです
ナディールくんを学校に
通わせませんか？

稼ぎが減ってしまうよ
絶対に反対だ！



でも彼の将来を
考えてみて下さい
このままだと
働ける選択肢が減って
しまいますよ

分かってるけど
金がないんだ



ではお父さん、午前中に
学校へ行き、午後から働く
というのはどうですか？

そんな都合良く出来る訳ない
学校は許してくれないだろう
それにナディールはもう12歳だ



いいお父さん、大丈夫です！
ノンフォーマル小学校なら！

ノンフォーマル
小学校？

はい、年齢を過ぎた
子どもでも学べますし

?

3年ほどで
小学校卒業資格を取る
ことも出来るんです

JICAが州政府と一緒に
作った教科書に
ナディールくんたちの
生活に役立つ事が
たくさん書いてあります

ナディールは計算が得意な子
なんだ!得意なことを伸ばせる
チャンスもあるのか?

そうです!お父さん
彼はきっと学んで成長してくれます

ここでは勉強以外にも身の回りを
清潔に保つ事や、他人との付き合い方も
学べます!きっとご両親も驚くほど
成長してくれますよ

こうして学べるようになったナディールは
働く時間が短くなり、お給料は
200ルピー(約190円)と減ったけど



両親もこのまま彼が学び続ければ
より良い仕事に就けるんだと理解し
応援するようになった

そして今ではお店の請求書や
帳簿をつける手伝い出来る
ようになったナディール



職場のみんなからも感謝され
どんどん自信もついている

それだけじゃない
お客さんがウルドゥー語や英語でオーダー
してきてもわかるようになって
関心の範囲がどんどん広がっている

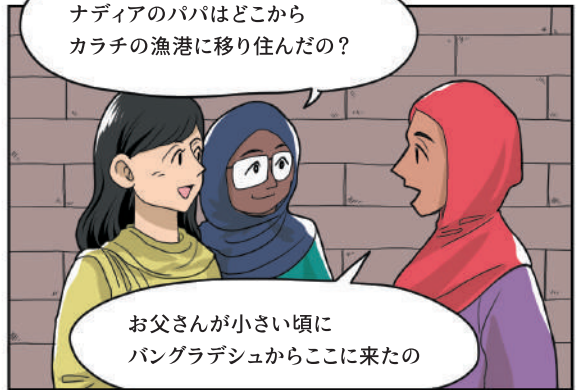


早く小学校の資格を取って中学校、さらに上に進み
いつかは自分のビジネスを立ち上げたいという
夢まで持つようになった

14歳のナディアは
ノンフォーマル教育の学校で
4人の兄弟姉妹と一緒に学んでいる



ナディアのパパはどこから
カラチの漁港に移り住んだの？



お父さんが小さい頃に
バングラデシュからここに来たの

今は10人兄弟姉妹
上の3人のお兄ちゃんは
肉屋の工場、刺繍屋の工場で
働いているわ



私たちが住んだ地域には
学校がなかったから
誰も学校に行った事は
なかったの

そうなの…そして
このノンフォーマル教育の
学校と出会ったのね



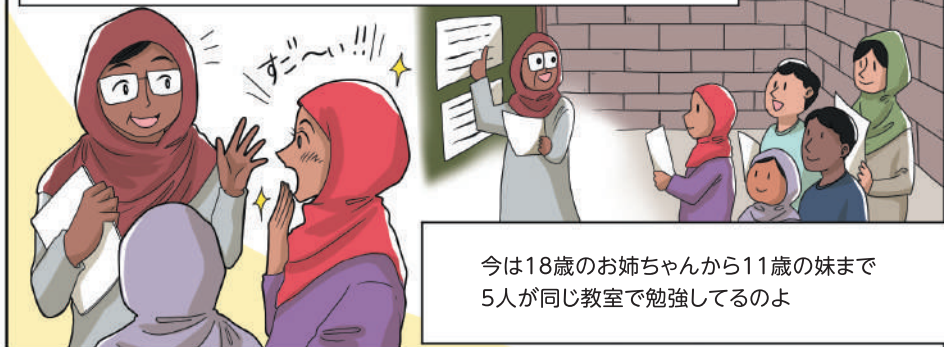
そう!ここは
近所だから
嬉しかった!

そしてみんなで
通い始めたのね…



うん!お姉ちゃんのナイマも私も
学校に行く年を過ぎちゃってたから
どうせ行けないねって話しての

そしたら、普通の学校だったら年齢的に通える資格が
なかった人達の為の学校でもあるって聞いて
家族みんなで大喜びしたの!



それは良かったね~!

もうすぐ小学校3~4年生
レベルが終わるの

私たちの下にも2人弟が
いるから、学校に行くのを
楽しみにしてる



ナディアの将来の夢は何?

コミュニティの人の役に立つ
ソーシャルワーカーに
なることよ!

ここカラチのNGOの普及員や先生たち大人が
私たちに勉強するチャンスくれたように

いつか私も地元みんなが
幸せになれるように働きたいの!



2022年、夏の洪水... 国土の1/3が被害に...



プロジェクトでは
ノンフォーマル教育における
経験を活かし、

「学び」を途切れ
させない

途切れても
学び
直せる
仕組み

約 350 万人の
子どもたち
被害を受けることに...

LEARNING

機能的な
リテラシー=識字



収入源



復興に向けた
生活の立て直し



保健衛生

「ノンフォーマル教育教師
研修修了証者」を取得した
先生たちも誇らしげ...♡

パキスタン
全域から学べる
通信教育の大学

アラマイクワバル放送大学



コース学習をサポートする
学習センター 1000 以上

ノンフォーマル教育

不就学児の若者に
基礎的な教育機会を提供

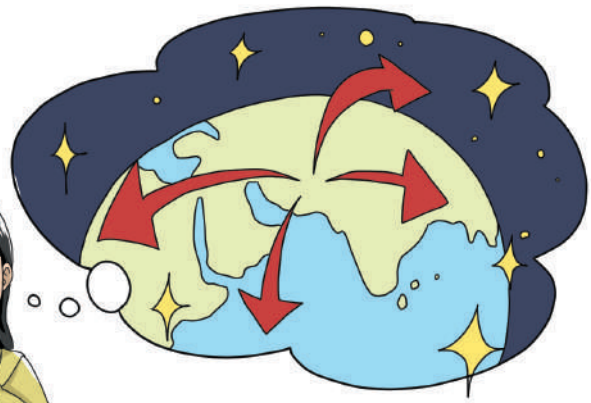
連邦政府や州政府にも認知されつつある



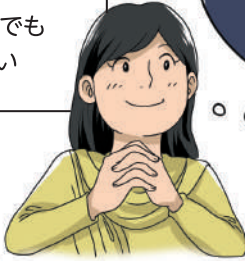
私は
中学校の
コースを
作成中



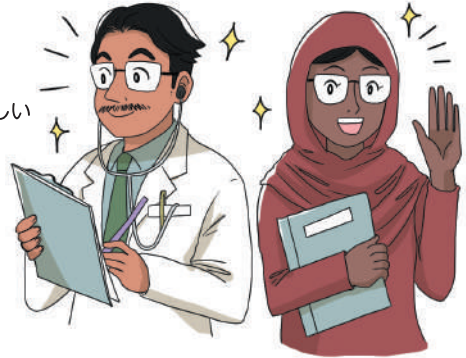
JICAの専門家として願う事…
ノンフォーマル教育の
アプローチが
パキスタン以外の場所でも
日本でも広がって欲しい



どんな年齢でも
学べる環境作り…



そこで学んだ人達の
自信に満ちた顔を見せて欲しい



学ぶ

ということをあきらめて欲しくない
だから、私たちはこれからも
学ぶ場所を作り続けていきたい





独立行政法人国際協力機構（JICA）は
日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として
開発途上国への国際協力を行っています
JICAは、「信頼で世界をつなぐ」をビジョンとして
人々が明るい未来を信じ多様な可能性を追求できる
自由で平和かつ豊かな世界を希求し
パートナーと手を携えて、信頼で世界をつなぎます

パキスタンにおけるノンフォーマル教育プロジェクト

パキスタンにおける15歳以上の識字率は57%（女性46%、男性68%）（2021年）と、世界で最も低いグループに属しています。また、パキスタンでは不就学児童の数が多く、特に女子の不就学率が高いことから、教育機会の拡充が急務となっています。ノンフォーマル教育（NFE）は、児童が居住するコミュニティ内ないし近辺に学習環境が整備され必要経費も安価であることから、これらの課題解決に有効なアプローチです。JICAは2004年よりパンジャブ州で、2015年からは対象地域を拡大しNFEを支援してきました。従来の学校教育の機会を享受できない子どもや機会を逸した青年・成人に対するオルタナティブ（代替的）なアプローチとしてNFEを位置づけ、質を強化する同国政府の取り組みを支援しています。



詳しくはこちらを
ご覧ください



AQALの活動とノンフォーマル教育がもたらすインパクト



JICAのノンフォーマル教育プロジェクト紹介

「いつでも、どこでも、誰でも、いくつになっても」学び始める、または学び直す方法があるのです。それが再チャレンジをしたい人に学ぶ機会を提供するノンフォーマル教育と呼ばれる仕組み。かつては公教育と比較して「二流の教育」と見なされることが多く、資金も人材も信頼もない中からのスタートでした。それでも、次第に共にプロジェクトを動かす心強い味方を得て、不就学児童や若者・成人の非識字者が学んで社会に参画していける教育の仕組みづくりや、生活に役立つコンテンツを盛り込んだカリキュラム・教材を開発。その結果、パキスタンの全ての州と連邦直轄地域にまでノンフォーマル教育事業を拡大するという成果を挙げています。

「ノンフォーマル教育」は「教育」というものの中の一つで『柔軟でその場所のニーズに合ってる教育』ってことなんです！



JICA・政府・市民社会の協働

社会の発展・経済的基盤
多様な人がともに生きる社会の醸成



AQALプロジェクト

いろいろな人の夢を実現させるための学びと資格の提供

トランス
ジェンダー

遠隔地の
女子・女性

働いている
子ども・若者



民族・宗教
マイノリティ

難民
国籍のない人

障がいを
持った人



政策や制度の枠組み—基盤づくり

企画制作・発行 : 独立行政法人 国際協力機構(JICA)

監修 : 大橋知穂

漫画 : びるじろうず

脚本・デザイン : ROOM810

発行年月日 : 2023年1月

プロジェクトヒストリー
当冊子はこちら



この作品は事実に基づいて執筆された書籍『未来を拓く学び「いつでも どこでも 誰でも」パキスタン・ノンフォーマル教育、0（ゼロ）からの出発』を元に、再編集し制作された漫画です。